

横浜市立あかね台中学校
平成29年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○「誰もが安心して豊かに、楽しく生き生きと生活できる学校」をめざします。 ○「子どもにとっての最大・最高の学びの環境は、教職員自分自身である」ことを常に意識し、日々の教育活動を行います。 ・生徒が主体的に取り組めるように「わかる授業」「魅力ある授業」を実践し、指導と評価の一体化を図るとともに、学習の「教材・方法・評価」について工夫・改善を進めます。 ・生徒会活動・学級活動・部活動・ボランティア活動など、生徒の自主性・主体的な活動を重視し、集団への帰属感・自己有用感・自尊感情を高めます。 ・生徒・教職員が安心して生活できる学校にするために、ユニバーサルデザインを意識して、安心・安全に配慮した学習環境の保持・整備と日常の危機管理に努めます。 ・いじめ・不登校の未然防止のため、日常的な生徒との関わりや相談活動・家庭訪問を通して、生徒のコミュニケーション能力を育成し、「信頼」と「共感」に基づく生徒・保護者との関係づくりを進めます。 ・優しさや思いやりの心を育む「心の教育」を推進するために、教育活動全体を通して行う道徳教育・人権教育の充実を図ります。 ・家庭・地域および関係機関との連携、9年間で育てる子ども像の実現のため、小中一貫教育を更に推進し、社会を生き抜く力の育成に努めます。 ・学校の実態や課題を具体的に認識するための学校評価を実施し、保護者・地域の人々の信頼と期待に応え、また、教職員がやりがいや達成感、子どもの成長を実感できる学校運営を進めます。 ・学校運営協議会を通して、「地域とともにある学校」を目指します。また、学校支援地域本部の活動を更に進めます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p>確かな学力 (学習指導)</p> <p>担当 学習指導部</p>	<p>「わかる授業」「魅力ある授業」の実践、指導と評価の一体化を図るとともに、学習の「教材・方法・評価」について工夫・改善をすすめる。</p>	<p>①すべての教科で、授業のはじめに本時のねらいを示し、終わりに振り返りを行い、授業のユニバーサル化の定着をすすめる。②積極的に授業公開し、「思考力・判断力・表現力」の過程を大切に「学びを促す授業」への工夫と改善に努める。</p>

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

平成28年度 (Left) and 平成27年度 (Right) charts showing scores for 1st, 2nd, and 3rd years in subjects like Japanese, Social Studies, Math, Science, and Foreign Languages, as well as learning and life awareness.

(1) 学力の概要と要因の分析

全学年とも横浜市の平均を上回っている。学年・教科・ただし、「基礎・基本」「活用」別では平均を下回るものがある。学習意識も横浜市の平均を上回っている。また、ほとんどの全学年、全教科で「基礎・基本」問題の正答率が「活用」問題の正答率が高い傾向がみられる。「活用」問題の正答率をさらに上げるため、子どもが自ら考え、取り組む双方向の授業へシフトしていく必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全学年とも学習意識が高いが、話す・聞く能力や書く能力に関する問題に課題がある。
- 社会科：全学年とも学習意識が高いが、学年によって思考判断表現や資料活用技能に課題がある。
- 数学科：全学年とも学習意識が高いが、数学的な見方・考え方に関する問題に課題がある。
- 理科：全学年「観察・実験が好き」の値が高いので、実験を中心に、理科におけるその他の学習意識を高めたい。
- 外国語科：全学年とも学習意識が高く、徐々に力を伸ばしているが、読む力に関して課題がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成26年度から28年度の過去3年間の経年変化の状況からあまり変化がなく安定している。学力、学習意識、生活意識で市の平均を上まわり、特に生活意識が高い。教科による学力、学習意識で学年の特徴が見受けられる。あかね台中内の比較で学力の低い学年、教科では、学習意識で「勉強が大切だと思う」「社会に出て役に立つ」が低い。授業内でのキャリア教育や社会生活との関連付けをすれば更に向上が期待できる。また、実技教科の学習意識の低さがみられる。経年変化の状況より、今の学習が自分の将来の何に関わっているのか考えさせ、将来、社会の形成者となるための必要な能力の育成を考えた授業づくりが大切と思われる。

3 平成29年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 実生活や実社会に結び付いた課題を設定し、課題を解決するための言語活動を学習過程に位置付け、生徒自らが活用することを通して知識・技能の定着を図る。
- 目的や場面、意図等を意識して話したり、聞いたり、書いたり、読んだりすることを通して、思考・判断する場面を充実させる。

数学

- 数学的活動を重視し、身近な課題について数学的に考え、その良さを理解させるよう心がける。
- 課題に対して論理的に思考し、説明できるような取組を実践する。

音楽

- 各行事（合唱コンクール・三送会・卒業式など）では、表現の工夫をし、生徒がより主体的に取り組めるようにする。
- 鑑賞では、各時代の音楽を取り上げることで、興味関心を高め、いろいろな音楽表現を知り、主体的・魅力的な題材の提供を工夫する。

技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験、興味・関心を把握し、生徒の資質・能力を踏まえ題材設定を行う。
- 習得した知識と技術を積極的に活用し、意欲をもって追求し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返す。

特別活動

- 学級活動や生徒会活動、学校行事に主体的に取り組むことを通して、生徒が活動の意義や大切さを感じるようにするとともに、集団のリーダーとして活躍することのできる人材を育成する。
- 学校生活全体を通して、集団の中で望ましい生き方や、よりよい自分の生き方について、生徒自身が考えを深めていけるような活動を設定する。

個別支援学級

- 自立を目指したさまざまな学習に対し、主体的に取り組むために、一人ひとりの実態に応じた学習環境を整える。
- 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し指導の充実を図り、達成感を味わえるようにする。

社会

- 本字の学習のめあて・目的・課題を明確にし、また、関心を高めるために写真や映像の資料を活用する。
- 思考を深めるために少人数による話し合い活動を計画的に取り入れ、表現活動の充実を図る。

理科

- 知識を高めるために、常に実生活と理科のつながりをもたせ、知識の定着化を図る。
- 実験を通しての体験を重視し、思考力の向上を図り、関連付けした知識の活用ができるよう努める。

美術

- わかる授業や達成感を味わえる表現活動をめざし、工夫を努める。
- 授業内で作品やアイデアを見せ合う場をつくり、多様な表現を認め学習の共有を図る。

外国語

- 場面を設定したコミュニケーション活動を積極的にを行い、主体的な学びになるような学習方法を工夫する。
- UNIT全体で生徒に身につけさせる力を明確にして、単元計画、評価計画を立てる。

総合的な学習の時間

- 行事の協働的な取組の中で、コミュニケーション能力と表現力の育成を図り、その中で課題を見つけ、主体的に解決しようとする態度を育てる。
- 職業講話や職場体験を通して学んだことを、自己の生き方につなげて考える力の育成を図る。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。